

令和7年 年始市長訓示

職員の皆さん、あけましておめでとうございます。

今年は例年より少し長い年末年始の休暇となりました。ゆっくり過ごされ、家族や親戚の方々と人によってはお孫さんと楽しい時間を過ごされたのではないかと思います。

昨年は、「昨日の自分を超越しよう」という肩の力の入ったフレーズをお伝えし、去年までの自分、先月までの自分、場合によっては昨日までの自分とは違い、どんどん新しいことにチャレンジしていこうということで皆さんに取り組んでもらいました。津市政としても、今までの津市政を超越しようということで取り組んできましたが、フェーズを乗り越えたという感じを持っています。それを象徴するものが、昨年12月28日に開通した大谷踏切です。

平成10年に踏切を拡幅することが決まってからずっとできなかったものが、ようやくできたということです。12月28日の午前9時に橋北中学校の生徒5人と最初に踏切を渡りましたが、その場には、付近にお住まいの方も100人くらい集まっていただき、晴れやかな、嬉しそうな、にこやかな顔でいらっしやいました。市民の皆さんに喜んでいただくことが我々の大きな喜びであるわけですが、この踏切が皆さんの期待の表れであり、もっと言えばなかなかできるものではなく、2.5mの幅の踏切を譲り合って渡ることが、津市のやり方と思っていたものが、大きく変わるということを実感していただくことになりました。ある意味津市役所やるじゃないかと思っていただけた。大谷踏切の拡幅の後、年末年始に多くの方とお話をしましたが、大谷踏切の拡幅ができたのだから、今の市役所であれば、今まで無理と思い込んできたこと、自分たちが市民としてそういったものと思っていたことが、実は変わるのではないかと、まだ見ぬ世界に到達できるのではないかという雰囲気や気配を感じることも多くありました。

どのようなことかと言うと、例えば、この10年姿を変えていない津駅は、市民の皆さんにとっては、今の姿が当たり前ですが、それぞれにとってお困りごとがあり、我々としても望ましくない姿が現にあります。東口であれば、送迎車が頭から駐停車し、バックで出ていくといった安全上望ましくない状況があります。一部の高速バスや送迎バスが津駅東口のターミナルから出ていない状況もあります。大谷踏切が開通したので、東口から乗車する芸濃地域や大里地区、高野尾地区のお客さんが増えるのではないかと点やタクシー乗り場を今後どのように考えていくべきかといった点など新しいことが出てきています。津駅西口については、津西高校行の直通バスが津駅西スクランブル交差点の手前から出ていますが、一般車が停車するバスを追い越していくのは、非常に危ない状況となっています。さらに、一般車が送迎する際に乗り降りする場所がはっきり

していないのも危険です。また、歩道が狭いので、こどもたちが非常にひしめき合って歩いています。特に今日のように傘をさして歩く日は本当に大変です。これを当たり前の不便として受け止めているのが市民です。しかし、駅前自体が大きく変わる未来があるのではないかと、今よりずっと使いやすい駅前になるのではないかと、こういう期待が出てきています。

昨年1月1日の能登半島地震から一年が経ち、防災について改めて注目されてきました。この地域には南海トラフ地震が起こる想定であり、そうなればもっと大変です。市民の皆さんからは、いずれはくるのだからしっかり備えておく必要があるという声が届いています。私たちの応援に来てもらえるよう車両がスムーズに通行でき、私たちの命が少しでも助かるような、そういう未来になってほしい、そのために津市の受援力、災害対応力をもっと強化してほしい、そういう期待を込めた声です。

子育てについては、こどもを産み育てることがなかなか大変な時代です。核家族化が進み3世代同居が少なくなる中で、なんとかやりくりしているような状況です。産み育てやすいということからもう一歩進んで、「こども」を主語にして、こどもが健やかに育つ、そういう社会を作っていく必要があります。

例えば津市は、ボートレースの収益金でこども基金を作りました。その財源を使って、もっと津市ならではの独自の子育て支援策を展開できるのではないかと、その結果、家族の笑顔があふれる未来があるのではないかと。そういう期待、希望、願い、望みを様々なところから聞いています。それだけ市民の皆さんが期待してくださっています。大谷踏切の完成が象徴するように、高いハードルでも今の津市ならば乗り越えてくれるのではないかとという期待感があります。その期待感を受け止める年にしたいと考えています。

令和7年は合併20年目の年です。来年の1月1日には20周年を迎えます。20年は一区切りであり、来年度には合併特例事業債の活用期限を迎えます。令和8年1月1日、20周年を迎えた日に、今申し上げたような市民の期待やこれからの市政に対する思いに応えられなければなりません。

イメージと言うならば、例えば、歌舞伎に廻り舞台があります。舞台ががらりと転換する仕掛けです。これまで舞台の前面で演じてきたところが回転し、これまでバックヤードであった部分が表に出て、すぐに舞台が始まります。そのときしっかり演じるために、今の津市政をどう捉え、転換したときに何ができるかをしっかり備える年にしてください。

令和8年1月1日は、新しい津市政を市民の皆さんにお届けするタイミングです。市政は継続していますから、令和7年は市民の皆さんの御期待に一生懸命お応えし、課題とされていることを一つ一つ実現していく年ではありますが、それを表側で演じながら、後ろ側では令和8年に演じることの準備をしっかりし

てください。そういう年にしたいと考えています。

例を挙げて申し上げると、市民の御期待ということの順番で言えば、一つは都市づくりです。これは、津駅が変わるかもという期待に応えるということで、既に舞台の後ろ側で仕込みをして、準備をして、そして舞台袖からチラチラと前に行くような形で、津駅西口の整備イメージ案を4回お届けし続けてきました。いよいよこの10日までに頂いた御意見を受けた最終案のまとめに向けて、令和7年度の設計、令和8年度の着工といった実際に形にしていくための準備を進めていくとともに、津駅東口については、国、県とよく相談しバスタプロジェクトとしての具体的な形を作り上げていきます。

大門・丸之内地区は、津駅のような大きな核となるものではありませんが、一つの土地や建物をどう活性化していくか、不動産の取引をどうつないでいくかなど、これらには新しい工夫が必要です。

都市づくりは、地域交通にも求められています。新しいコミュニティバスの仕組みを変えていくにあたって、何が今求められているのか。もともと今のシステムよりも良いシステムを作りたいということからです。しかしながら、料金は抑えたいので、住民にとっては、タクシーほど自由自在のものではないが、利用者がコミュニティバスの時刻表に合わせない限り乗れないというものでもないといったものを作りたいというところからスタートしています。これをどのように作り上げていくか。

産業用地についても、民間からの提案に従って、地区計画を作っていくというスキームを作りました。これは、都市マスタープランの次の改定までの期間を有効に使って前に進めておくということを考えたものです。これが、令和8年1月1日には、次の都市マスタープランに向かって、かなり動きを出してきます。先ほどの廻り舞台で言えば、都市マスタープランに関する演技が始まっているようなことになりますが、その前の時間をどう有効に使っていくかということでスタートしているものです。

目の前で演じているものと後ろ側にあるものが、非常にうまくつながっている状態を作っていかなければなりません。

防災について言えば、非常にリアルな想像力を高めていく、そしてその結果総合力を高めていくといったことをどんどんしていかなければなりません。皆さんそれぞれ、南海トラフに対しては心構えもあり、何を備えなければならないかもわかっておられるわけですが、それを実際に災害対応力として、高めていくということが必要です。

香良洲高台防災公園は、この3月に完成しますが、この活用が良い事例になります。香良洲高台防災公園にどのようにして香良洲の方々が上がられるのかということを、私たちが一緒になってしっかり備えておく。香良洲の方々にどうぞ

使ってくださいというだけではなく、総合支所はもちろん関係各部がそれぞれ香良洲高台防災公園に住民が上がった後、どうやってその方々に支援をお届けするのかなど、もっともっと地域防災計画に書き込まなければならない、そういう事態であると思います。

消防の西分署の工事が進み、そして鈴鹿市、亀山市と一緒に行う消防通信指令業務の共同運用についてもどんどん準備が進んでいきます。これもいよいよ始まるときに備えてしっかりと良い形を作りこんでいかなければいけません。

こども・子育て政策は、(仮称) こどもまんなか社会実現会議を作ろうと言っていますが、この会議は、従来のような団体の代表が来て、理論的なもっともらしいことを言って、そこが政策のお墨付きを与えて政策を進めていくというような会議ではありません。こどもまんなか社会を実現する会議です。従来会議に実現力があるかという、いささか疑問があるわけで、今後は自ら動く会議にしたいと思っています。ですから、実現会議自体が、アメーバーのように形を変えて、色んな人を取り込み、新しいメンバーを加え、自分たちが動いて自在に物事を作っていく、それに対して財政的なバックアップはもちろん必要ですから、行政と一緒に関わる会議にしたいと考えています。そのため、こどもまんなか社会実現会議には、こども自身、こどもを産み育てているお父さんお母さん、あらゆる子育てに関わる方々が、自分の関心分野や望みを持って参加し、そして市民参加で作りあげていく、そういうこどもまんなか社会を作りたいと考えています。

令和8年1月1日には、それが表舞台で演じられているようなところに令和7年はしたい。その結果、例えば子育ての応援ヘルパーさんに来て欲しいということであれば、そういうヘルパーの事業を作りあげていく。あるいは、住宅についてはどのように若い人たちが住むかということについての新しい施策を作っていく。こどもが遊べる公園づくりも同様です。こどもを産みどのように育てるのではなく、こどもがのびのびとすくすくと育つ、そういう社会作りのために色々なことに取り組んでいきたいと思っています。

3つ例を挙げてお話をしました。これらは廻り舞台の表側でこれまで進めてきた施策を今年もしっかりと組織的に統制の取れた体制のもと進めながら、廻り舞台の反対側に、合併後20年経った日の翌日(来年の今日)からどのような市政を市民にお届けするか、それをしっかりと仕込んでおく、熟成させておく、そういう年になろうかと思っています。

即座にスタートできるようにということなのですが、今日幹部会議のメンバーに御出席いただきました。それぞれ皆さん、今責任のある立場でいらっしゃる、定年延長のなかで、今後役職から離れて、引き続き仕事をさせていただく方も多くいらっしゃいます。その方々にとっては非常に動きやすい話となります。この3

月まで今の部長、所長の立場で、今までやってきたことをしっかりと成果を出しながら、次につないでいく、準備を重ねていく、仕込んでいくということ。そして4月以降は、自分は少し責任を離れ、あるいは自由な立場で伸び伸びと貢献していく、そういうことができるわけです。もちろん、今年定年延長でない方々は、それぞれ引き続き責任を持って、令和8年1月1日を迎えていただきたい。年の初めに来年の年頭のイメージで語りましたが、そういう連続性、流れ、継続性に加えて、私たちが合併して20年目を迎え、20周年に向けて取り組んでいくタイミングにあると、年末の大谷踏切の開通を契機に色々と考えて、今日ここで話をさせていただきました。決して揺らぐことではないと思いますし、皆さんはそれぞれ、今までの御経験のもと、一生懸命尽くしていただいている、市民の皆さんのお役に立っている、そういう組織の責任者でありますから、その組織をしっかりと引っ張ってください。

令和7年、皆さんと一緒に市民の皆さんが晴れやかに喜んでもらえる姿を色々な場面で見たいと思っています。一緒に頑張りましょう。